

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3373600398		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホーム勝央		
所在地	岡山県勝田郡勝央町植月中2423-1		
自己評価作成日	平成23年1月20日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者は、高齢となり身体的にも自由に動くことができなくなった中で、昔からの慣わしや地域行事に参加し、なじみの生活を取り入れながら、楽しく過ごすことができるようになっています。少しでも楽しみを持って生活ができ、「ここにいる良かった」と本人・家族が思えるように支援いたします。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3373600398&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3373600398&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成23年2月5日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

那岐連山が眺望できる風光明媚で四季が感じられる県北の中山間地にある。母体が医療法人で理事長は医師であり、県下各地に介護施設を運営し、そのノウハウとネットワークを生かし、質の高いケアを提供している。津山市内の総合病院とも協力関係にあり常時健康相談等に応じており、緊急時には対応してもらえ、入居者・家族は安心してホーム生活ができる。当ホームは創始者の出身地であり、町内の夏祭り・保育園の事業等に積極的に参加し地域連携を進めている。管理者は職員と共に入居者の立場に立って良きパートナーとなり、第二の我が家を目指し、努力と工夫を重ねている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で理念について話し合い、少しわかりやすくして、その理念に沿って実践できるようにしている。	昨年職員全員のミーティングで新しい家族の形を目指し、理念を見なおし作り変えている。理念は事務室に掲示しており、常時確認し実践に向け努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流を積極的に行い、食材は、地産地消を基本にしている。地域の保育園は、慰問もあり交流している。ゆず・栗・黒豆などの差し入れもあり、地域で支えられている。	保育園と交流し、町内の夏祭り等地域行事に参加しており、ボランティアの職場体験を受け入れている。近所の差し入れもあり、地域とは積極的にお付き合いを進めている。	消防署・駐在の警官などに呼びかけ、ホームと地域関連機関のネットワークを構築し、新しい地域の創生を目指してはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭に参加し、作品の展示など認知症の理解をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状態や活動報告、行事への参加などを報告し、防災に目を向けるなど行き届かないところのアドバイスをいただき、改善に努めている。地域の消防団などに協力の橋渡しを頂いている。	町内会長・民生委員・管理者・町職員が参加し、家族には交代で出席してもらい、ホームの事業を伝え、介護現場の状況を説明すると同時に、地域の情報や提案をいただいている。	運営規定・重要事項説明書にも運営推進会議に触れてはいますが、推進会議をさらに活性化し地域密着を推進して頂きたいと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの実情を理解していただき、困難なことなどには、相談援助を頂いている。認定調査の機会には、入居者の生活を理解していただき、連携に努めている。	町役場の担当者とは困難事例等に関して常に状況を説明し、相談して助言を得ている。美作地区グループホーム集会にも出席して情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、身体拘束をしない取り組みを共有している。	身体拘束防止マニュアルがあり、何が拘束になるか、身体拘束の弊害等を職員は研鑽し、入居者の尊厳を守ることを目標としている。同時に、個々の状態を把握して安全面に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、ミーティングなどで話し合い虐待に繋がらないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、必要時には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、運営規程・ケア方針など明記した文書をもとに十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ミーティングは、月1回行っており、利用者の思いを共有し、運営に反映させている。(運営推進会議への参加を依頼し、意見を頂いている。)	「勝央新聞」を発行し、ホームの状況を家族に情報提供しており、お涼み会・家族の集い等の訪問時に家族の意見・要望を聞き、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞きながら、管理者会議に報告し、改善できるよう努めている。	ミーティングには全員出席を原則とし、管理者は職員の意見を均等に聞いている。周囲の植木を伐採し見晴らしを良くし、居間の窓を吐き出しにする等職員の意見を運営に積極的に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望(家庭や介護)を優先し、勤務が出来る様配慮している。意欲のある人は定年は設けず働いていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が中心にケアの質の向上、認知症の勉強会など、ミーティングの機会を利用して行っている。研修会には、参加できるよう公表し勤務の調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	、交流機会は少ないが、美作地域のグループホーム間で勉強会したり、津山地域の研修会などで情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望に寄り添い、不安を理解し、馴染みの関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の希望、家族の思いや困っていること・要望などをききながら、よりよいサービスの提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時、すぐに入居できないときなど他の事業所などの利用も一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる能力を発揮してもらい、人生の先輩として助言を求め、できることは一緒にしていただくなど、かかわりを工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子や体調の変化があったときなど報告し、どのように生活されているかを理解していただく。また、機会があるごとに、生活暦やご本人の思いを共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域や生まれ育った環境を大切に、地域の行事に積極的に参加し、共通の話題を提供している。	今までの生活スタイルを継続出きる様に見守り、生活リズムを崩さない努力をしている。町内会に加入して地域の祭り等の行事に積極的に参加し、日常的になじみの人や場に触れるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、楽しく過ごせるような場面作りや気が合う利用者を把握し、すべての職員が情報を共有し、支援している。人のお世話を生きがいにされる方には、その力を発揮できる場面を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた利用者が、困ることがないように、必要な情報提供を行い、相談援助に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の言葉や表情の中から本人の意思を汲み取るよう努めている。意思の疎通ができないときは、家族や関係者に尋ねながら、本人にとって最善の関わりができるよう対応している。	意思疎通が困難な場合は、その人に寄り添い、表情・受け答えからその意向を表出できるように支援し把握している。今までの生活が継続できるように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーを尊重しながら、本人や家族や地域の方と話される中から把握し、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の生活のリズム、日常の過ごし方など、その日の気持ちのありように配慮しながら本人の思いに添った生活ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に要望や意見を求め、本人の思いを尋ねながら、利用者の思いが実現できるように努めている。アセスメントを含め職員全員で、モニタリング・カンファレンスを行っている。	半年毎の更新時にはモニタリングし、カンファレンスにより共同作成した計画書を家族に説明し、同意を得るようにしている。状況急変時には実情に沿って見直している。「丁寧に見てくださっているのですね。」と言う家族の声もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、バイタル・食事・水分量・排泄及び日々の生活の様子や言葉・エピソードを記録している。職員間で情報を共有し、よりよいケアの計画・実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の実情に合わせて、通院や個人的必要物品の買い物など、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加したり、保育園の慰問などを受けながら、少しでも楽しみながら生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医は変更しないでなじみの医師の訪問診療を受けている。かかりつけ医に職員も相談し、助言を受けている。看護師も往診に立ち会うようにしている。	地域密着型の趣旨に沿って以前からのかかりつけ医に受診しており、往診時には看護師が立ち会うようにしている。精神科のかかりつけ医とは直ちにFAXで相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常の生活ぶり、経過などを詳細に連絡し、対応しやすいようにしている。入院中も見舞いに行き、状態の把握に努め、今後についても相談しながら受け入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の望みをかなえられるように配慮しながら、ホームでの対応の可能な範囲を理解していただき誠実な対応に努めている。	終末ケアについては事業所が対応しうる体制を説明し、家族・本人の同意書ももらっている。重度化した場合は、その時点で家族とよく相談して実情に沿った対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が応急手当ができるよう、救命救急講習を受けている。急変時には、看護師の指導も受けながら対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣のホームと合同の避難訓練を実施し、全職員が災害時の対応を理解している。地域の消防署・消防団にも協力を依頼し、実情を把握していただいている。	自動火災通報装置を設置し、スプリンクラーを予定している。隣の「うえつき」グループホームと相互に緊急時応援ボタンを設置し、共同で避難訓練を行っている。町内にも放送され、地元消防団とも協力体制を持っている。	夜間の災害には近隣の支援が不可決です。地域住民と共に防災・避難訓練が行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、マニュアルにおいて確認するだけでなく、ミーティング時音読し確認している。、守秘義務を理解し管理している。本人の思いを大切に、さりげないケアを心がけ、自己決定しやすい言葉かけに努めている。	プライバシー保護マニュアルを設け、その目的・心得・具体的な取り組み等を詳細に規定し、秘守義務を徹底して入居者の尊重と、人権保護に繋がるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛けを行い、表情で汲み取ったり、筆談で伝わるようにして自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れを持っているが、一人ひとりのペースに合わせた生活をしている。食事・入浴・行事などは職員で決定することはあるが、誕生日は、本人の好みの献立にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定ができる方には尋ねながら、その日の衣類を決めていただいている。訪問美容師による髪型など実情に合わせておこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力により食事の準備・味付けや下ごしらえなどをしていただくこともある。	職員はさりげなく介助しており、週3回は一緒に同じ物を食べている。一日24品目食べるのを目標にしている。野菜を切りそろえたり、テーブル拭きや配膳を手伝う人もあり、当日は三色丼が出され和気藹々としていた。	足が床に届かず宙ぶらりんになっている人があり、食事時に足台を置く等工夫をしたら、より落ち着いて楽しい食事タイムになるでしょう。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲や体重の増減を見ながら、食事の量をだまかに増減している。水分は摂りやすいようにとろみ・好みの味・回数などを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。能力に合わせて声掛け誘導し・できない部分を介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、排泄誘導表をつけて一人ひとり、排泄パターンを把握しながら、誘導介助している。	日中は排泄パターンを見て定時誘導し排泄自立を支援している。オシメからリハビリパンツに変わった人もある。夜間はポータブルを使う人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のリズムに合わせ、水分が十分摂れるよう飲み物を工夫したり・野菜が十分取れるよう献立の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかな入浴日は決めているが、本人の希望を優先している。	入居者の体調・状況や本人の希望により入浴時間を変えており、入りたいと思った時に入って、快適な生活が送れるように支援している。ゆず湯や入浴剤を楽しみ、足浴・シャワー浴もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活のリズムに合わせて、休憩や入眠ができるように、室温や環境を整えている。昼食後は、夜間の睡眠に支障がないよう休んでいただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	能力に応じた服薬介助を行っている。薬や状態の変化は、全職員が理解できるよう申し送り、医師と連携し、状態の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて、役割を持っている。達成感を味わうことができるように、食事づくりや同僚のお世話もされる。気分転換の外出もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を叶えることはできないが、可能な限り、外出の機会を設けている。特別な外出でなくても、買い物・用事に出るときにも同行し、近所の方と話すこともある。	職員の声掛けで気分転換に散歩に出て、出来るだけ体を動かすようにし、近所の人との挨拶を心掛けている。家族と共に初詣などに行ったり、買い物・地域の行事に出かけ、自分が住んでいた所や勝央美術文芸館へ行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができることはないが、一緒に買い物に行ったり、物のねだんを見る・必要時は、一緒に買い物をすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話をつないだり、希望されるときは電話し、話されることもある。はがきの住所を書いて差し出すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、いつもボランティアにより、季節のお花が活けてあり、居心地のよい空間作りに努めている。	赤やグリーンソファ、テーブルが数台あり、テレビが置かれている。壁には保育園児の作品や共同作業の大きな貼り絵が飾られ、窓からは外の景色が眺望出来、快適な共有空間である。玄関には何年にも渡りボランティアの生け花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、気のあった人同士ソファに座ったり、一緒に唄を歌うなど自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い出の品や、作品を飾ったり、居心地のよい空間作りに努めている。	クローゼット・洗面台・エアコンが設置され、表札には名前と花の切り絵が付けられ、希望によって室内に畳・絨毯を敷くことも出来る。家族の写真やテレビも持ち込まれ、居心地良いその人らしい個室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせた安全な環境にしている。居室には、目線の高さで名札をかけている。		